

23/10/2 名古屋市議会経済水道委員会（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

浅井正仁(自民・中川区): ちょっと最後に名古屋城を質問させていただきたいと思っております。隅櫓本会議でもやらさしてもらったんだけど、隅櫓は、三つありますよね。

一つは耐震をやって今も見れると見学できるとあとの二つはできないと。この二つに関し家康が建てたそのものを本物の重文ですから、耐震も何にもやってないというところでね、これ本会議で市長に聞いたんだけどなんかあんまりよくわからん答えされて終わったもんで聞かさせていただくんだけど。

名古屋城の現天守閉めたときにね、隅櫓の耐震してないやつは開けてました、開いてました。じゃ隅櫓も閉めようと当然思うはずです。で閉めたのは去年から、ちょっとこの辺をどういう整理をしたらいいのか、教えてください。

名古屋城総合事務所管理活用足立課長: 失礼いたします。委員ご指摘の通り隅櫓に関しましては東南隅櫓と西北隅櫓でございますけれども、こちらはですね、平成22年に文化庁が通知いたしました予備診断の方法に基づいて、耐震診断を実施した結果によりまして、補強を含む根本的な修理が必要となる可能性が高いという状態であるということがわかっております。

一方でですね名古屋城の隅櫓は創建時のまま現存しております、国の重要文化財にも指定された、いわゆる名古屋城の本質的価値を構成する重要な要素であることから、名古屋城のですね理解促進と文化財を後世に残す大切さをお客様に伝えていく上で、やはり建物の内部に入って体感していくことを非常に大切なことと考えておるところでございます。したがってですね隅櫓の維持保存と公開の意義のバランスを考慮しながら、災害時においてはですね、係員に迅速な避難誘導などの適切な対応ができるように、例えば隅櫓の最上階である3階につきましては係員を含めまして9人しか入れないようにするなど、かなり人数を制限しつつ通常公開という形でですね、期間を限定した特別公開としております。

こういったことからですね一定の安全対策とそれ公開の意義を踏まえましてですね天守閣の閉館の際にもですね、隅櫓につきましては引き続きですね公開をさせていただいたというところでございます。

浅井正仁(自民・中川区): じゃ今の現天守を閉じるときに、今みたいな人数制限だとか、そういうことは考えてなかったのかな。

足立管理課長: 当時の考え方でございますけれども東南隅櫓でございますがこちらですねやはり中はですね名古屋城の本質的価値、そういったものを構成する要素として、できる限りですね中を見ていただきたいというふうなところでございます。

またですね、予備診断という方法によるですね、そういった耐震の結果でございまして、これはですね文化庁の通知にもありますように、あくまでもですねその建物の状態をですね知るためのいわゆる目安としての数値というふうにされていたところでございます。
一方でですね、天守閣につきましては最上階まで行きますとですね、やはり達するまで相当時間がかかるということになり、ISのようなですね詳細なですね耐震の調査の結果によりましてですね、一定のですね耐震性がないという判断を示されているところでございますので、やはりですね天守閣につきましてはですね、中にお入りいただくことができないというふうに判断いたしまして閉館したというふうに考えております。

浅井正仁(自民・中川区): 隅櫓は、安全、なんだ重要文化財で見てもらって、安全性が確保できて人数制限で入れると、だけど一発神戸みたいな直下型が来たら終わりだよ。終わりじゃないかな。でも入れてたんでしょ現実的には。耐震の検討もせずにね。
耐震の検討はしたんですか今まで。今の現天守を閉めてから、隅櫓の耐震を検討したんですか。

足立管理課長: 残りのですね二つの隅櫓につきましてはですね、耐震の状態もさることながらやはりここ数年のですね経年劣化が大変ひどくなってきているところでございます。そうしたことからですねちょうどですね、令和5年度以降ですね、重要文化財等の保存活用計画こういったものをですね策定を今後進めていくということになっておりましてですね、そうした中でですね、そういった東南隅櫓、西北隅櫓につきましてもですね、そういった対策を含めてですね、検討を進めていくということにさせていただいております。

浅井正仁(自民・中川区): ってことはまだ何もやってないってことね。
本来ならば、一番大切な隅櫓を直すのがあなたたちの仕事なんだね。
家康が建てたやつだよ。うん一番名古屋城で価値があるんじゃないの。
それを何にもせずにね、木造木造というのもしゃあものかなと思っております。
木造復元でね、これもこの間本会議で質問させてもらったんだけど、MHIだけ、の契約なんだけど、総務環境委員会説明資料っていう中から、ヒアリング結果っていうのがあって、そこに凄いことが書いてあるんですよ。
4月に公募を開始し選考の結果、最優秀提案が12月の早い段階で内定したので、副市長に説明をし、これは観文が副市長に説明したんだよ。
市長にも伝えたところ最優秀提案は認めないという話をされた。
市長は、このMHIの提案を認めないという話をされてんですよ。
これすごくて、要請みたいな話になってきちゃうんだけど、市長が認めないとすると、このMHIの提案自体はなくなってしまうね。
そういったところから入札のあれもなくなっちゃうっていうところから、あなたたちが説得して、これ市長は決済入札のあれに関して、決裁は取れたのかどうか、教えてください。

木造天守閣昇降技術開発等担当小鹿主幹： 公募で選定されました最優秀技術につきましては、市長の決裁を取れているところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)： そうすると市長もこの MHI で契約をしてもいいっていうことになると思うんだけどね。

今回こういった問題が来てなかなか進まないっていうのが現状だ。

そうするとどういうことが考えられるかっていうと、もう契約が何ヶ月も何ヶ月も先送りになるとこの MHI さんも多分もうこれ当初でいくと、6 月ぐらいの契約を想定してたのかな。どれぐらいで契約しようと思ったの、順調にいつ。

小鹿主幹： 契約につきましてははですね、令和 5 年度以降に契約ということをごです、目途にですね、事業者と協議を進めておりましたが、委員ご指摘の 6 月頃ということも含めまして、令和 5 年度中に契約をするものというふうに考えておりました。

浅井正仁(自民・中川区)： する今、MHI とは、なんだ契約に向けた進捗状況、ちょっとここを教えてください。

小鹿主幹： 公募におきまして、公募の要項ではですね、最優秀者の選定後、実用化に向けて基本協定および昇降技術開発契約の締結を予定していることから、令和 4 年度につきまして昇降技術開発の予算の見積もり、取得やですね、協定および契約に向けた事業者との協議を進めておまして、令和 5 年度引き続き、最優秀者との協議を継続して行っておりましたが、現在は協議が整ってきた状況でございます。

委員長： 浅井委員に申し上げます。

令和 4 年度決算案のご質疑でよろしく申し上げます。

浅井正仁(自民・中川区)： はい。でね要は、もし決算だもんであれなんだけど、この MHI さんがもう多分、この技術に関しては、昨年度の 12 月で決まったね。

選定された時点で、相当なスタッフからエンジニアから抱えていると思います。

その人たちをいつまでも止めとくわけにもいかない。

ひょっとしたらね、名古屋市さん契約してくれないからと言って、もうやめたって言うかもしれない。そうするとどういうことが考えられるか。

誰が一番喜ぶか、僕は河村市長だと思うんですね。

やっぱり技術者おらんくなっちゃって、エレベーターなしだ、昇降機なしだ。

僕はそれを一番恐れています。だから、あなたたちが12月に昇降技術に関する公募で最優秀者を選定した。その日程通りにやっていただくようにしたいと思うんですけど、局長さんどうでしょうか。

観光文化交流佐治局長： 昇降技術の開発の進め方についてお尋ねをいただきました。浅井委員ご指摘の通りですね、技術的な側面から何階まで設置できるのか、技術開発をした上でしっかり市民の皆様の意見をお聞きして、市の方針を決定することが重要であるというふうに考えておりました、さきの本会議でもそういうふうに答弁させていただいたところでございます。

実際のところ何階まで設置できるかということにつきましては、垂直昇降装置自体の単体で決まるものではなくてですね、あの建物との取り合いの関係で複数のその要素が関係するものというふうに考えているところでございます。

そうしたことから、垂直昇降設備としては技術開発を進めていく中で、公募要項で求めていますようにですね、可能な限り上層化を目指していきたいと考えておりますので、そういった方向で契約を結びたいというふうに考えているところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)： あのね、可能な限りって嫌なんだわね。最上階ね。

可能な限りっていうと、2階3階でこれでも可能な限りって言われるね。

でもこの契約は1階2階3階別々に考えてって、あとは竹中さんとのすり合わせが一番の課題になってくると思う。

その辺もあるだろうけども最上階を目指す。

これが、あなたたちに課せられた課題だと思ってます。

MHIさんともね、しっかりと契約をして、5階までのね、最上階までの技術提案をできるように進めていただきますことをお願いいたします。

以上で。